



仲間への“思いやりのこころ”

グッドフェロー賞

「Good fellow」＝「良い仲間」(直訳)＝スポーツマンシップ

H.I さん

～Jr. 選手育成コースの保護者～

7月31日(土)、「サマージュニア大会」という県大会での出来事です。
U9女子シングルスアの部へ、育成コースのA.Iさん(小4)が出場しました。

準決勝、ゲームカウント5-5。大接戦の時でした。ラリーが大変長く続いたポイントがありました。そのポイントは、とても重要なポイントで、どちらの選手も欲しいポイントです。ですから、お互い丁寧にラリーしていました。
最後は、相手の選手が強打を決めました。

その時、「パチパチパチ！」と、拍手の音が響きました。拍手の主は、Aさんのお父さんでした。

「相手の子、すごいね！よく打ったね！」
お父さんはそう言って、お母さんに話しかけました。お母さんも笑顔でうなずきました。

大会会場での保護者は、誰もが自分の子どもに100%意識が向くのが通常です。しかし、Aさんのお父さんは、相手のナイスプレーを“拍手”で称えたのです。この行為なかなかできることではないと思います。

また、これらの行為に対するAさん自身の理解も必要になります。自分の親が、対戦相手のナイスプレーに拍手する訳ですから、本人の中でその行為に納得できていなければ成り立たないと思います。Aさんのご家庭では、日頃からスポーツマンシップについての話し合いがいろいろと行われているのかなと思いました。

Aさんのプレーの素晴らしかったですが、その試合を見守るお父さんの姿勢もとっても素晴らしかったです！



H.I さん

～オリンピックの現場から～

『オリンピック憲章』

オリンピック憲章とは、5大陸にまたがる最高選手たちが一同に会する中での憲法的な役割を持つものです。その中の《オリンピズムの根本原則》を紹介します。

《オリンピズムの根本原則》

1. オリンピズムは肉体と意志と精神のすべての資質を高め、バランスよく結合させる生き方の哲学である。オリンピズムはスポーツを文化、教育と融合させ、生き方の創造を探求するものである。その生き方は努力する喜び、良い模範であることの教育的価値、社会的な責任、さらに普遍的で根本的な倫理規範の尊重を基盤とする。
2. オリンピズムの目的は、人間の尊厳の保持に重きを置く平和な社会を奨励することを目指し、スポーツを人類の調和の取れた発展に役立てることにある。
3. オリンピック・ムーブメントは、オリンピズムの価値に鼓舞された個人と団体による、協調の取れた組織的、普遍的、恒久的活動である。その活動を推し進めるのは最高機関のIOCである。活動は5大陸にまたがり、偉大なスポーツの祭典、オリンピック競技大会に世界中の選手を集めるとき、頂点に達する。そのシンボルは5つの結び合う輪である。
4. スポーツをすることは人権の1つである。すべての個人はいかなる種類の差別も受けることなく、オリンピック精神に基づき、スポーツをする機会を与えられなければならない。オリンピック精神においては友情、連帯、フェアプレーの精神とともに相互理解が求められる。
5. スポーツ団体はオリンピック・ムーブメントにおいて、スポーツが社会の枠組みの中で営まれることを理解し、自律の権利と義務を持つ。自律には競技規則を自由に定め管理すること、自身の組織の構成と統治について決定すること、外部からのいかなる影響も受けずに選挙を実施する権利、および良好な統治の原則を確実に適用する責任が含まれる。
6. このオリンピック憲章の定める権利および自由は人種、肌の色、性別、性的指向、言語、宗教、政治的またはその他の意見、国あるいは社会のルーツ、財産、出自やその他の身分などの理由による、いかなる種類の差別も受けることなく、確実に享受されなければならない。
7. オリンピック・ムーブメントの一員となるには、オリンピック憲章の遵守およびIOCによる承認が必要である。

《根本原則》の解釈

オリンピック憲章で言っている「オリンピックの精神」とは、スポーツを「単なる順位づけの競い合い」に留めず、個人の鍛錬・苦悩・挫折等の競技までの過程で得たものが、勝敗などの結果を越え、その人の「生き方」や「哲学」となり、さらにそれが周りへ良い影響を及ぼすことを目的としている部分に注目してほしいと思います。

「メダルの数」を取りあげることの多い日本メディアですが、勝敗に関係なくすべての選手たちの言動に注目して見てください。そこには、金メダル以上の輝きを放つものの存在が垣間見えると思います。

また、このオリンピック憲章を定めているオリンピック最高機関IOCは、すべての個人に対して、スポーツの権利・自由を守っています。これらは、人種・肌の色・宗教・政治・性別等のいかなる種類の影響を受けることなく、確実に守られています。

今、世界に目を向ければ、あらゆる場所に危険を見つけてしまいます。日本国内に目を向ければ、子どもたちが本当に育ちやすい環境なのか疑問を感じるケースも多く存在しています。そんな時代の中で、リオ・オリンピックが開幕しました。スポーツは、単なる勝敗の争い事ではなく人生哲学を目指すものになり得ることを、オリンピックでは証明しようとしています。幼稚園児たちに「お友だちと仲良く」と教えていながら、日本中、世界中で大人同士の争い事が絶えない中、オリンピズムの友情・連携・フェアプレー精神の推奨は、私たち大人に何を伝えようとしているのでしょうか。